

(8) 中学校保健体育部会

会 長 黒岩 惣一 (西土佐中)

副会長 和田 正人 (中村中)

事務局 前田美由紀 (中村中)

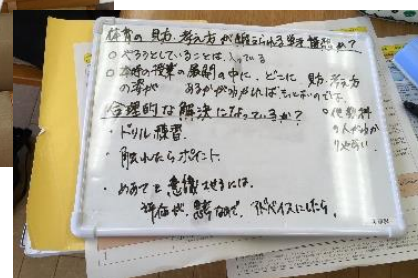
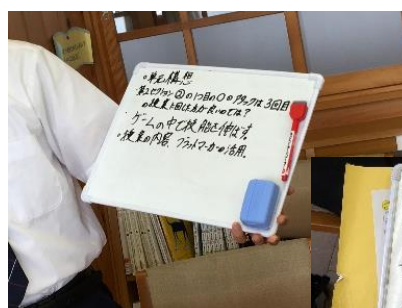
1. 研究主題 「お互いの良さを認め合い、ともに伸びる体育学習」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年 5月6日(金)	四万十市教育研究会 組織総会 内容: 役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小学校	11名参加
令和4年 8月5日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容: 指導案検討 報告書 前田美由紀 教諭 (中村中学校)	中村中学校	11名参加

3. 今年度の取り組み

今年度は、教材研究として、中村中学校の協働校事業で行う球技ネット型、バレーボール授業の指導案検討を行った。どの学校でも、バレーボールは苦手な生徒が多く課題が多い。小学校からの9年間を系統立てて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業作りを目指し、参加した教員が授業を行う時にどんな工夫をし、また、これからの体育の授業に求められる力など再確認する学習ができた。



4. 今年度の成果と課題

話し合いの視点

○体育の見方・考え方が鍛えられる単元構想になっているか。

- ・ 本時の授業の展開の中に、どこに見方・考え方の姿があるかがわかれば、もっとよいのではないか。
- ・ ゲームの中で技能を伸ばす工夫。
- ・ 第2ユニット②のアタックは、3回目の授業に回した方がよいのではないか。

○合理的な課題（自己やチーム）の解決になる単元構想になっているか。

- ・ ドリル練習の内容の工夫を行うとよい。
- ・ 触れたらポイント制など導入してみてもどうだろうか。
- ・ めあてを意義付けさせるには、評価するところが思考なので、「アドバイスするには」にしたらどうだろうか。
- ・ フラットマーカーの活用をしたらどうか。
- ・ 場や、ルールの設定が重要である。

【成果と課題】

成果は、体力や技能の程度、性の違いがあっても、体育の見方・考え方を働かせ、課題を克服することで仲間とともにバレーボールを楽しむことができる授業を目指し、積極的な意見交換ができた。活発な話し合いにより、初めの指導案よりも生徒の目線や、授業の課題をより考えることができ、単元構想の中でも、生徒の思考の流れがわかるようになった。また、体育の見方・考え方の中でも、「ここを意識させる」というところを考えることができた。

課題は、これからの体育の単元構想の中で問われている「合理的な課題解決」に向けて生徒ひとり一人の状況を把握し、どういう自分を目指すかといった個別最適な学びを大切にしながら、生徒の状況にあった授業形態やルールの工夫、チーム作りなどをしっかり考えていくことや、評価の仕方で、何をどのようにして見取っていくかというゴール=つけたい力を明確にして、計画していかなければならない。